

国際力動的心理療法研究会

International Association of Dynamic Psychotherapy

第18回年次大会

大会テーマ

災害と外傷からの回復のための心理的トリートメント
Psychological Treatment for Reviving from Disaster and Trauma

大会概要

日時

2012年9月1日(土)―3日(月)

会場

宮城学院女子大学
(JR 仙台駅よりバスで約30分)

大会会長

小谷英文 (国際基督教大学 教授)

大会副会長

セス・アロンソン (ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 ファカルティ)

大会ホームページ

<http://www.iadp.info/>

最新情報を随時更新しています。

主催

・国際力動的心理療法研究会 (IADP)

共催

・震災復興心理教育臨床センター
・宮城学院女子大学附属発達科学研究所
・国際基督教大学高等臨床心理学研究所

後援

・国際集団精神療法集団過程学会 (IAGP)
・国際集団分析的な心理療法学会 (IOGAP)
・宮城県
・仙台市教育委員会

 International Association of Dynamic Psychotherapy

大会会長挨拶

国際力動的心理療法研究会第14回年次大会を、我々は国際集団精神療法集団過程学会地域会議のホストとして、環太平洋集団精神療法集団過程学会大会と合同開催で2008年松江にて行いました。神々が一堂に会する神無月に世界の心理臨床エキスパートたち、精神科医、看護師、ソーシャルワーカー、教師で集い、心の平和、人と人の間の平和、世界の平和の基盤となる心の安全空間の心理療法的探求を豊かに行いました。そして今、私たちは東日本大震災からの復興に向けて苦しい闘いを強いられています。戦争以外もはや人智を超えた怖れは無いかの如くに、かつてない貪欲な生産性を科学のパワーで実現した人類に、3.11 東日本大震災は自然本来の脅威を我々に突きつけただけでなく、科学の安全保障神話を打ち砕く制御不能の放射能災禍をもたらしました。“Fukushima problem”です。このような人智の想定を超えた突然の破壊に遭遇して、人は一体何ができるのでしょうか。心理臨床、医療、教育の専門家として、ひいては世界市民として、我々の誰もが深刻な関心を交わしています。

国際力動的心理療法研究会の理事長、そして第18回年次大会会長として、私は東日本の中心都市仙台にて大会を開く決断を致しました。この過大な災禍に見舞われ、今なお二次災害、三次災害の脅威にさらされている人々の復興の闘いに我々も参与し、集うことにより支援の心理的、象徴的な意味を強く期待してのことです。未曾有の震災による致命的な痛手の中にある地域において、復興の新たな地平を切り開いていく共々の営みに集う会員および世界の心理療法家を心より歓迎致します。この震災の危機を2001年のニューヨーク、1945年の広島、長崎の人々が克服していったように私たちも乗り越えていくことを、私は信じて疑いません。

国際力動的心理療法研究会 第18回年次大会会長
小谷英文

災害臨床プログラム (DCP) のご案内

災害臨床プログラム(Disaster Clinical Program; 以下 DCP)とは、国際力動的心理療法研究会の、東日本大震災の心理支援特別プログラムです。DCP は、震災以降、震災復興心理・教育臨床センター(宮城学院女子大学内)との連携の元で被災地の市民およびメンタルヘルス専門家の方々を対象とする直接的な心理学的支援を行ってきました。

長引く余震、原発問題が絡み合い、影響が長期化している今回の震災は、一回性の災害による心的外傷とは違った難しさがあります。こうした心的外傷の予防・治療という課題に真正面から取り組むために、今回の本大会に先立って震災1年後の3月24日-25日にプレカンファレンス「東日本大震災サポートグループ」を実施しました。被災地の専門家の先生方、一般市民の方々に対し、心的外傷、あるいは心的外傷が慢性化して残る PTSD の意味、そして症状の理解、対処法、治療方法の伝達を行い、その具体的な手法であるサポートグループを参加者全員が体験し、一人一人の心の回復・復興、ひいては地域の復興力を高める具体的なイメージを共有しました。

このプレカンファレンスを基盤に、第18回年次大会本大会でも、国内外の心的外傷のトップの臨床家を招聘し、これまでの活動と連動しながら、より規模を大きくし、専門家のみならず、一般の市民の方など、震災を体験したどなたでも参加し、体験できる PTSD の予防・治療活動を展開していきます。

IADP 会員の方も、本大会での DCP 参加を歓迎しております。未曾有の震災からの心理的復興に参与し、学び合い、心理療法の専門家としてのアイデンティティを共に磨いていきましょう。

皆さま、是非ご参集ください。

災害臨床プログラム委員長
川村良枝

※災害臨床プログラム (DCP) には **DCP** の印をつけています。

国際力動的心理療法研究会 第 18 回年次大会 スケジュール

1 日目:2012 年 9 月 1 日(土)

9:00-

受付開始

9:30-11:00

開会講演・大グループ

「災害・外傷・専門の貢献」

大会会長:小谷英文(国際基督教大学 教授)

11:30-13:00

大会基調講演 **=DCP=** (一般公開)

「災害:その心理的影響と回復における見えるもの、見えざるもの」

講演者:ボニー・ビュークリ(国際集団精神療法・集団過程学会 理事)

13:00-14:30

昼休み

14:30-16:30

大会フォーラム **=DCP=** (一般公開)

「地震、津波、原子力問題の状況に我々の専門性が寄与できることは何か」

司会:

セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 ファカルティ)

西川昌弘(国際基督教大学大学院 准教授)

パネリスト:

田野井慶太郎(東京大学大学院 准教授)「放射性セシウムの農産物への影響」

足立智昭(宮城学院女子大学 教授)「子どもに見る震災の影響」

指定討論者:

鹿島晴雄(国際医療福祉大学保健医療学部 教授)

16:30-17:30

全体グループセッション

リーダーシップ:

小谷英文(国際基督教大学 教授)

ジュディス・デイビス (Performance Development Associates 代表)

19:00-21:00

懇親会

会場:仙台国際ホテル(送迎バスがございます)

2 日目:2012 年 9 月 2 日(日)

市民参加災害臨床プログラム ワークショップ
「アゴラ」

9:00-

受付開始・ワークショップ登録

9:30-11:40

アゴラ:ワークショップ午前 **=DCP=** (一般公開)

- ・ワークショップ紹介は 8 ページを参照して下さい。

11:40-14:30

昼休み

- ・ IADP 学会参加者対象のランチタイム座談会があります。

14:00-14:30

ワークショップ(午後)登録

14:30-17:30

アゴラ:ワークショップ午後 **=DCP=** (一般公開)

- ・ワークショップ紹介は 8 ページを参照して下さい。

17:45-18:30 **=DCP=** (一般公開)

アゴラ:全体ふりかえりグループセッション

リーダーシップ:

小谷英文(国際基督教大学 教授)

IADP 学会参加者対象プログラム

12:30-14:15

ランチタイム座談会

「災害と精神分析:見えない世界からの解放」

話題提供者:

吉松和哉(式場病院 特別診療顧問)

メンバー:

セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 ファカルティ)

ボニー・ビュークリ(国際集団精神療法・集団過程学会 理事)

ラルフ・モーラ(アメリカ海兵隊岩国航空基地 岩国診療所(BHC)心理士)

モートン・キッセン(アデルファイ大学ダーナー高等心理学研究所 教授)

ジュディス・デイビス (Performance Development Associates 代表)

司会:

小谷英文(国際基督教大学 教授)

3日目:2012年9月3日(月)

9:30-

受付開始

10:00-12:00

ケースセミナー

スーパーバイザー

- 北山 修(国際基督教大学 客員教授)
- セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 フェカルティ)
- ボニー・ビュークリ(国際集団精神療法・集団過程学会 理事)
- ラルフ・モーラ(アメリカ海兵隊岩国航空基地 岩国診療所(BHC)心理士)
- モートン・キッセン(アデルファイ大学ダーナー高等心理学研究所 教授)
- ジュディス・デイビス (Performance Development Associates 代表)
- 西川昌弘(国際基督教大学大学院 准教授)
- 能 幸夫(PAS 心理教育研究所 所長)
- 橋本和典(PAS 心理教育研究所 クリニカルディレクター)

12:00-13:30

昼休み

13:30-15:30

全体ケースセミナー

「姉の死に対して自責感を抱く被災児童の一例」

発表者:小野寺滋実(宮城県子ども総合センター 児童精神科医)

スーパーバイザー:小谷英文(国際基督教大学 教授)

9月1日 大会プログラム紹介

開会講演・大グループ「災害・外傷・専門の貢献」

大会会長:小谷英文(国際基督教大学 教授)

9:30-11:00

言語:日本語・英語(通訳がつきます)

巨大な自然災害というものは、人災と無縁という訳にはいかない。人々は瞬時のうちに自分自身が破壊される怖れと同時に、慣れ親しんでいる世界が破壊される怖れを体験し、心的外傷に晒される。そのような状況の中でも、人々はお互いで助け合うことに英雄的な犠牲を払う。被災を免れた地域から被災者の踏ん張りに応えようとする支援活動も次々に展開される。実際に、東日本、とりわけ東北の人々は、これまでの1年半というもの、普通の生活に向けての復興を目指し、とてつもない踏ん張りを見せている。その事実を誰も否定することはできない。誰もが最大限の努力を重ねていながら、我々はまた我々自身による人災から逃れることもできない。企業論理の「共謀」による深刻な原子力発電所の問題が、大変な災害と心的外傷を生んだ。専門のサイコロジストとして、精神分析家、精神科医、看護師、教師あるいは行政者として、我々の多くは、今や我々自身が自然災害被災者から災いをもたらす侵入者と看做されることもあることを自覚している。事実、我々の献身的な支援活動に伴う多くの人間的過ちもまた、被災者に二次災害もしくは三次災害をもたらす。さらに支援の専門家もボランティアもまた、自身の善意の、しかし過った行為によって傷つきもしている。

私自身が直面している別の問題もある。人々の被災地域の捉え方である。被災地とは、何だろうか。被災地とは、津波が押しよせ多くの人々をさらっていったのを見た生存者達が住む場所のみを指すのだろうか。あるいは福島原子力発電所の20km圏内のみを指すのだろうか。私は二週間ごとに、無料の震災心理・教育センターで30人あるいはそれ以上の人々に会うが、そこを訪れる方々はそれぞれの傷つきがあるにもかかわらず、自分自身の被災体験をなかなか語ろうとはなさない。「私の経験は小さなことで、そんな話をするのは申し訳ない気がしています。3月11日、私は地震には遭いましたが沿岸部にはいなかったのです。」涙をいっぱい溜めて初めて自分自身の経験を語った後でさえも、自分自身が痛んでいることをなかなか認めようとはなさない。自分自身の痛みを抱え、そして多くの人の力になりながら、二次被害、三次被害を被ったまま、必要な心のケアを受けていない方々が非常に多い。

原爆投下後に広島に降り注いだ「黒い雨」は、原爆被災地域のとりわけ目立った印であったが、この黒い雨の影響を受けた地域は、今なお議論の中にあり解決に至ってはいない。ここにもまた人災にさえ至る、人が産み出す問題の難しさがある。

このような状況下の心理学的問題に、専門の力は欠かすことが出来ない。「原子力ムラ」の仕儀が専門家の信用を失墜させたように、被災の現実の凄まじさは専門家の貢献の信用性も傷つきやすいものにする。

未曾有の震災がもたらしている心的外傷に対して、専門の貢献を果たしていく多大な困難と可能性を分かち合う時である。この重要な時にこそ出来る学術的、臨床的蓄積の検討を重ねるために、今行き当たっている課題を分かち合う大グループから、本大会を始めよう。

大会基調講演「災害:その心理的影響と回復における見えるもの、見えざるもの」

ボニー・ビュークリ(国際集団精神療法・集団過程学会 理事)

=DCP= (一般公開) 11:30-13:00

言語: 英語(通訳がつきます)

災害が襲った際の、直後の影響は目に見えます。人々は、食物、衣服、そして医学的ケアを必要とし、そして世界も応じます。生き残るために必要なものが、その他の全てのものに優先されるのです。いくつかの心理的なダメージもまた災害後すぐに、はっきりと目に見えます。例えば、誰もが認識していることですが、愛する人の喪失は人生における最も悲痛な出来事です。しかし、災害は後にならないとわからないその他の多くの心理的な影響をもたらします。ほとんどの人は健康で強く、対処しますが、全ての対処メカニズムは非常に大きい犠牲を伴うことがあります。大災害はしばしば、心的外傷の構成要素となる強い恥の感覚、個人境界の侵害、同一性の喪失即ち象徴的な自己の死として体験されるものを引き起こし、人々はこのような体験を生き抜く中で変化します。近年の神経科学的な研究はまた、外傷的な体験によって脳の構造が変わることを明らかにしています。

不必要な苦しみが起こらないよう、心的外傷反応は隠れていることがあり、後になって災害とは無関係かのように現れることがあります。対人関係におけるストレスの増加、自殺、虐待、機能レベルの低下、そして薬物濫用は、必ずしも災害に関連しているとは見られない影響の一例です。生き残った人が彼らのペースで話せる範囲の量で、安全な環境や器がある愛着の中で外傷的な体験を語ることは、辛い出来事から癒されていくための重要なステップです。最終的には、犠牲の少ない対処法を選ぶことや、自己の感覚の変化における統合が起きることが成果になります。当日、ビュークリ博士は、目に見える、そして隠れて見えない災害の心理的な影響をより詳しくお話します。また、災害によって隠れた影響と、心理的な犠牲の大きい対処法をとることになってしまったこととの関係を発見することで得られる、回復を促進する方法についてもお話します。

大会フォーラム「地震、津波、原子力問題の状況に我々の専門性が寄与できることは何か」

=DCP= (一般公開) 14:30-16:30

言語: 日本語・英語(通訳がつきます)

大会フォーラムでは、まず、福島で放射能の農作物の影響を研究している田野井先生、東北の子どもの心の傷の予防や発達を助け、そして親御さんの支援を行っている足立先生から、東日本大震災後から地道に継続してなされている活動の成果や、そこでの経験を語っていただきます。そして、長年の精神科治療経験と脳神経科学の立場からの鹿島先生の議論も交え、今、そしてこれからの震災の現状と課題を、参加者それぞれの立場で、発言し、考え、感じ、確認していく全員参加のフォーラムを開催します。

9月2日 大会プログラム紹介

ランチタイム座談会「災害と精神分析:見えない世界からの解放」

12:30-14:15

言語: 日本語・英語(通訳がつきます)

見えないものを見るものにどう出来るのだろうか？

精神分析家として、あるいは力動的心理療法家としての我々の専門性は、正にここにある。未曾有の大震災は人々に途方もない見えない問題をもたらしている。甘えの心理力動分析は、見えない心の世界に至る道を切り開くことが出来る。「災害と精神分析、そこに展開する精神分析的仕事」を語ろう。見えない世界に光を当てる我々の仕事をひも解く採火を、吉松和哉先生にお願いした。チェアは、大会会長が務める。

9月2日 災害臨床プログラム (DCP) ワークショップ紹介

アゴラ =DCP= (一般公開)

アゴラとは、元来、古代ギリシャの市民の重要な議題が語られ、また物が行き交う市場が開かれた広場のことを意味しました。私たちは、現代社会に生きる市民が集まり、大事な心のことを語り合い、個人と個人がエネルギーと情報を行き交いさせる、現代版の広場(アゴラ)を作る試みに取り組んできました。

2012年3月に仙台市で開催されたIADPプレカンファレンスでは、宮城、福島、岩手を中心とした東日本の被災者、全国からの支援者とともに、震災に関わる心の傷の荷下ろしと活力の取り戻しを目的とした、アゴラを開催しました。アゴラでは、いろいろなワークショップが市場の出店のように開かれ、参加者は自分の興味関心にそって参加しました。そして、アゴラの中で震災・被災にまつわる痛み、不安、怒り、罪悪感、孤立感、悲しみ、大事な人への愛情、信頼、そしてそれらを安全に語れる喜びを、語り、分かち合いました。「震災後初めて泣けた」「初めて語った」…。こんな声があがりました。いつもとは違う自分に触れ、心の底から自然とあふれる底力を体験した方もいました。ひとりひとりが震災に関わる自分と他者の体験に向かい合う場と時間と空間を、少しずつですが着実にコミュニティ全員で創り出したのです。

本大会では、災害臨床プログラム(DCP)として、ワークショップの一日をかけて、3月にお招きしたボニー・ビュークリ先生に加え、国内外の専門家を多くお招きし、さらに規模を大きくして、参加者全員でアゴラを再び創ります。市民の方々も専門家の方々も東日本大震災を体験した人々で集まり、改めて震災の大事な体験を分かちあい、そしてまた活力を少し充填してみましょう。

ぜひ、身近な方もお声かけいただき、お気軽にご参加ください。お子さんを連れていらしても大丈夫です！多くの方のご参加をお待ちしております。

以下に、タイムスケジュールとアゴラの中で開かれるワークショップとリーダーたちを紹介します。

タイムスケジュール

9:00-	受付・ワークショップ参加登録	
9:30-11:40 アゴラ	A:1日ワークショップ	B:ワークショップ午前
14:30-17:30 アゴラ		C:ワークショップ午後
17:45-18:30	全体グループセッション	

■ A: 1日ワークショップ

- A-1. 自然災害と関連した子どもの心的外傷に対する心理力動的治療技術
ラルフ・モーラ(アメリカ海兵隊岩国航空基地 岩国診療所(BHC)心理士)
- A-2. 心的外傷をもつ青年との治療的作業
セス・アロンソン(ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 ファカルティ)
- A-3. 心的外傷サポートグループ、プレセラピー・グループ、グループセラピー
小谷英文(国際基督教大学教授/認定集団分析の心理療法師)
- A-4. 虐待への反応としての心的外傷と女性
ボニー・ビュークリ(国際集団精神療法・集団過程学会 理事)

■ B: ワークショップ午前

- B-1. 心の道具箱を創る
ジュディス・デイビス(Performance Development Associates 代表)
- B-2. 力動的心理療法とヨガによる被災後の治療
モートン・キッセン(アデルファイ大学ダーナー高等心理学研究所 教授)
- B-3. 心の軸を太くするトレーニング Socio-Energetic Training (SET)
中村有希 (PAS 心理教育研究所)
伊藤裕子 (PAS 心理教育研究所)
- B-4. Story Making Group ー震災を体験した自分の物語を紡ぎ、他者の物語と出会うー
中村麻耶 (PAS 心理教育研究所)
花井俊紀 (PAS 心理教育研究所)
足立智昭 (宮城学院女子大学 教授)
西浦和樹 (宮城学院女子大学 教授)
- B-5. 福島人のためのサポートグループ
橋本和典 (PAS 心理教育研究所 クリニカルディレクター)
- B-6. 今、ここの自分が、安全に、相手に声を発し、自分に立ち戻る仕方を学ぼう
西川昌弘(国際基督教大学大学院 准教授)

■ C: ワークショップ午後

- C-1. 心の軸を太くするトレーニング Socio-Energetic Training (SET)

中村有希 (PAS 心理教育研究所)

伊藤裕子 (PAS 心理教育研究所)

C-2. Story Making Group –震災を体験した自分の物語を紡ぎ、他者の物語と出会う–

花井俊紀 (PAS 心理教育研究所)

足立智昭 (宮城学院女子大学 教授)

西浦和樹 (宮城学院女子大学 教授)

C-3. Story Making Group –震災を体験した自分の物語を紡ぎ、他者の物語と出会う–(English Group)

中村麻耶 (PAS 心理教育研究所)

ジュディス・デイビス (Performance Development Associates 代表)

C-4. 福島人のためのサポートグループ

橋本和典 (PAS 心理教育研究所 クリニカルディレクター)

C-5. 今、この自分が、安全に、相手に声を発し、自分に立ち戻る仕方を学ぼう

西川昌弘 (国際基督教大学大学院 准教授)

A: 1 日ワークショップ

■ A-1: 自然災害と関連した子どもの心的外傷に対する心理力動的治療技術

ラルフ・モーラ (アメリカ海兵隊岩国航空基地 岩国診療所(BHC)心理士)

9:30-11:30, 14:30-17:30

言語: 英語 (通訳がつきます)

参加対象者: 専門家・一般市民

2011 年に東北地方を襲った津波災害が彼らの人生、そしてコミュニティに与えた衝撃に、多くの子どもたちは苦しみました。これまでの研究により、心理治療的な介入はこのような子どもたちの人生を大きく改善できることが分かっています。本ワークショップでは、心理力動的なアプローチ、特にハインツ・コフートの自己心理学の観点に影響を受けたものに着目し、重篤な PTSD (心的外傷後ストレス障害) に苦しむ子どもたちの治療に焦点を当てます。

5 時間のワークショップでは、自然災害に晒された子どもたちの日常生活における心的外傷によるストレスの実態を描き、これらの子どもたちの治療の複雑さを探求します。扱う視点は、子どもの癒しを促進するためのセラピストの人間としての反応です。それゆえディスカッションの大部分は、それぞれの固有の文化や立場の背景の中で、自分自身の反応を、心的外傷によって変化した自己の感覚と付き合い助けにしない子どもたちと出会っていくセラピストが、自分自身のネガティブな逆転移を観察し、統制する必要性に重点を置きます。

最初の 1 時間は、疫学的な研究と、コミュニティアプローチ、プレイセラピー、そしてグループアプローチなどの様々な介入方略を含む、子どもの PTSD における文献の概観を提供します。2 時間目は、PTSD に苦しむ子どもたちの理論的な側面に、特に、破損した自己症候群 (damaged self syndrome) に重点を置きながら着目します。最後の 3 時間は治療に焦点化し、心的外傷を振り返ることが安定してできるようになるところから徹底操作へと治療が進むこと、また子どもという対象群における固有の転移・逆転移の側面について扱います。

■ A-2: 心的外傷をもつ青年との治療的作業

セス・アロンソン (ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 ファカルティ)

9:30-11:30, 14:30-17:30

言語: 英語 (通訳はつきません)

参加対象者: 専門家・一般市民

このワークショップでは、心的外傷をもつ青年との作業に焦点を当てます。青年期は複雑な発達段階にあると言えます。この発達段階では、様々な事柄についての交渉に取り組むことになります。青年期と働く専門家は、青年期が発達課題を克服するのを促したり交渉したりする一方で、彼らが心的外傷の経験について取り組むことを助けるとい、とても手ごわい問題に直面します。このワークショップの参加者は、青年たちが抱える心的外傷の症状、例えばフラッシュバックにおける心的外傷の再体験、解離による回避、不眠や集中力の低下などに見られる過覚醒を識別することを学びます。また、転移と逆転移の問題についてもディスカッションし、この一群への治療的な介入とグループでの作業による効果についても話し合います。

■ A-3: 心的外傷サポートグループ、プレセラピー・グループ、グループセラピー

構成・体験指導: 小谷英文 (国際基督教大学教授/認定集団分析的心理療法師)

9:30-11:30, 14:30-17:30

体験指導: 参加者定員 20 名まで

参加対象者: 専門家・一般市民

言語: 日本語

震災復興心理・教育臨床センター(宮城学院女子大学内設置)で行われている無料心的外傷心理教育プログラムの実践をもとに、心的外傷に関わる心理力動的心理療法の基本理論と技法を参加者で体験しながら学び合います。参加者は、心的外傷を抱えている人だけでなく一般の人々にもかかっている心の重荷を降ろすための心のケアを、どう準備しどう取り組むのかを学ぶことが出来ます。そしてまた外傷的経験による自分自身のストレスからの解放と癒しをどのようにして得ることが出来るかをつかみましょう。

■ A-4: 虐待への反応としての心的外傷と女性

ボニー・ビュークリ (国際集団精神療法・集団過程学会 理事)

9:30-11:30, 14:30-17:30

言語: 英語 (通訳が付きま)

参加対象者: 専門家・一般市民

時代を通じて、そして世界の様々な文化の中で女性は虐待を体験してきました。彼女たちはしばしば地位が低いために、また子育ての能力と責任性を有するために、自分たちが虐待を受けることに対して脆弱で居続ける役割を取らされてきました。レイプ、近親相姦、暴行、情緒的な脅威、そして子どもたちに危害を加えるところを無理やり目撃させられることは、いくつかの虐待の形です。女性に対するある種の虐待はその事実から性的なものとして見られることがありますが、実際主たる要素は暴力であり性的な色合いは少ないことが多く、性は時として武器として使われます。たびたび女性はこれらの恐怖と体験について語りませんが、それは彼女たちが恥と罪悪感の気持ちで

いっぱいだからです。実際女性が、自分自身が虐待を受ける誘因となるような何かの行動をとったと思うことも珍しくありません。虐待の事実を黙していることは低い自尊心、高い不安、悪夢、驚愕反応、うつ、そしてパニック障害や摂食障害などの結果につながります。地震などその後の心的外傷を引き起こしかねない出来事への強まった反応に対する脆弱さもまた後遺症です。女性が受ける様々な虐待に対する効果的な治療は存在し、治療を受けることができると彼女たち自身そして家族にとって予後が良くなります。本ワークショップでは女性が受ける可能性がある特殊な心的外傷体験について、また心的外傷の影響、そして治療の成功例について議論します。特に、虐待そのものの存在の中における文化の役割、そして効果的な治療と回復を構成するものが何かについて着目します。

B:ワークショップ午前 / C:ワークショップ午後

■ B-1:心の道具箱を創る

ジュディス・デイビス (Performance Development Associates 代表)

9:30-11:30

言語:英語(通訳がつきます)

心の弾力性(レジリエンス)についての研究は、非常に着実に行われています。人は自らの心の弾力性を向上させるために、様々な心理的「道具」を学ぶことができるということがわかってきています。このワークショップでは、災害に対して起きやすい反応と、心がどのように心的外傷に対処しようとするかを、相互作用を通して学びます。私たちは、詩、誘導イメージ療法、ストーリーメイキングを使って、アートが治癒のためにどのように助けになるかを体験します。

※このワークショップは、宮城学院女子大学職員向けのワークショップです。

■ B-2:力動的心理療法とヨガによる被災後の治癒

モートン・キッセン (アデルファイ大学ダーナー高等心理学研究所 教授)

9:30-11:30

言語:英語(通訳がつきます)

参加対象者:専門家・一般市民

私は、精神分析家として、心的外傷体験からの効果的な治癒のためには、悲嘆すること、悲しむことが必要だと常々思ってきました。私自身、娘を亡くした後、ヨガによる治癒の力を経験したことを通して、精神分析とヨガの効果を組み合わせることで生じる、治癒の二つの側面について気づくようになりました。一つの面は記憶のプロセスです。例えば、私には娘との過去の写真に繰り返し触れ、その写真にまつわる思い出を蘇らせることで、記憶のプロセスが起きました。もう一つの側面には、身体と呼吸に意識を向けた姿勢ということが関わっています。これを、非常に注意深く、自分に対して思いやりを持って、そしてほとんど記憶に頼らない「今、ここで」のやり方で行います。

このワークショップでは、講義と体験の両方を行います。心的外傷的な喪失からの癒しの効果を高めるための、精神分析とヨガにおける考え方とスキルを融合させることに重点を置きます。最初に、感覚—運動的な感覚、身体感覚を向上させる精神分析のアプローチについて少し講義をした後、精神分析とヨガという二つのモデルの共通点と差異を比べてみるために、二つの体験的なエクササイズを活用します。精神分析とヨガというモデルを組み合わせることが、癒しのプロセスを促進す

る非常に良い手段であることをお見せできると思います。

■ B-3, C-1:心の軸を太くするトレーニング Socio-Energetic Training (SET)

中村有希 (PAS 心理教育研究所)

伊藤裕子 (PAS 心理教育研究所)

9:30-11:30, 14:30-17:30

(午前・午後 2 回開催:片方の参加、2 回の参加、どちらも可能です。)

言語:日本語

参加対象者: 専門家・一般市民

自分にとって大事だと思う人を思い浮かべてみてください。大事な父親、母親、兄弟、友人、恋人、同僚に怒っていますか、愛を伝えているでしょうか？ 震災後、自分にとって大切な人との間でなぜか声をかけづらくなってしまっていないでしょうか？ 「自分は周りの人たちより大した被害を受けてないから、被害の大きかった人たちに話しかけることなんてできない」と感じて、気軽に心を言葉にすることが難しくなっています。私たちはストレス状態に陥ると、相手のことや周囲のことばかりを考えてしまい、自分から湧いてくる愛情や怒りを見失いやすくなります。この訓練では、相手の反応を受け取る前に、自分から愛と怒りのエネルギーを発する感覚を実感することができます。どんな状況の中でも自分の足がしっかり地についていられるための「心の軸」を太くするトレーニングです。

■ B-4, C-2, C-3:Story Making Group –震災を体験した自分の物語を紡ぎ、他者の物語と出会う–

中村麻耶 (PAS 心理教育研究所)

花井俊紀 (PAS 心理教育研究所)

足立智昭 (宮城学院女子大学 教授)

西浦和樹 (宮城学院女子大学 教授)

ジュディス・デイビス (Performance Development Associates 代表)

9:30-11:30, 14:30-17:30

(午前・午後 2 回開催:片方の参加、2 回の参加、どちらも可能です。)

言語:B-4, C-2:日本語、C-3:英語(通訳はつきません)

参加対象者: 専門家・一般市民

人は一人ひとり、心の中に物語を持っています。自分自身の人生の物語です。

Story Making Group (通称: SMG) は、作家になり切って「物語作り」をする活動を通して、自分の物語、自分の心の世界を表現し、それに触れ、出会い、そして自分の心の中にある新しい活力を取り戻すプログラムです。

震災から1年以上が経ちました。毎日を乗り越えるために、自分の気持ちや体験、記憶に触れない方が力を使いやすいことがあったと思います。その一方で、なにか気になったり、置き去りにしてきている感覚はありませんか？ ある場所を避けてしまう、あることを聞くだけで涙が出てきてしまうことはありませんか？

震災は、私達それぞれの人生の物語の途中で起きた出来事です。それぞれの物語の中で震災の意味や大きさは違うものですが、比べられるものではありません。ですが、それを語ることを遠慮したり、気にしないようにして、物語を途中でとめてしまっていないですか？

一人ひとりの大切な物語を共に取り戻しましょう。ずっと触れなかったものに触れることは、最初は怖いものです。SMG には、その怖さを和らげ、安全に触れられる工夫が盛り込まれています。中村、花井、

足立、西浦の SMG チームと一緒に取り組みます。午後には、SMG を一緒にやりたいとアメリカからいらっしやるジュディス・デイス先生と英語の SMG も行います。

■ B-5, C-4:福島人のためのサポートグループ

橋本和典 (PAS 心理教育研究所 クリニカルディレクター)

9:30-11:30, 14:30-17:30

(午前・午後 2 回開催:片方の参加、2 回の参加、どちらも可能です。)

定員:20 名

言語:日本語

参加対象者:福島在住または、福島出身の方

「福島問題」は収束の見通しを得ていません。原発問題を抱え、「復興」とは言っても決して震災前と同じ形には戻れない現実を前に、何と向き合い、何を取り戻し、何を創っていく必要があるのでしょうか。震災・津波の直接被害にあった地域、原発避難区域、そしてそこから県内、県外に避難している方々。多くの喪失や、「放射能恐怖」に堪えながら、地道に歩んでいる方々。福島出身で、遠くにいながらも、様々な形で故郷を想い、関わろうとする方々。現実的な脅威の続く中では、過重なストレスによる心の傷の問題が重なってきます。われわれは、3 月のプレカンファレンスで、心の傷に対する重要な予防・治療法の根幹は「少しずつ、その体験を語り続けることだ」と改めて学びました。

集団を使った心の治療の専門家と共に、自分にとっての「福島」を真正面に据えて、福島の方、福島出身の方で集うサポートグループを実施します。同郷人の良さを使いながら、それぞれの心の荷物を語り下ろし、震災前、震災後、今、そしてこれからの復興の道筋をそれぞれに描く試みです。ぜひ、語りに来てください。お待ちしております。

■ B-6, C-5:今、この自分が、安全に、相手に声を発し、自分に立ち戻る仕方を学ぼう

西川昌弘 (国際基督教大学大学院 准教授)

9:30-11:30, 14:30-17:30

(午前・午後 2 回開催:片方の参加、2 回の参加、どちらも可能です。)

言語:日本語

参加対象者:専門家・一般市民

今からおよそ 1 年半前の 3 月 11 日に起きた東日本大震災以来、私たちは、地震、津波被害に加えて原子力発電所爆発事故の大きな被害と向かい合い、復興への努力を重ねています。本ワークショップでは、今の自分の体験を届けたい相手に声を発して、その上で、自分に立ち戻る仕方を、安全に学び、試してみませんか。

現代の心理学は、私たちが、自分と向き合い、自己対話を進めるのに、自分と近い他者との対話が大きな助けになること、また、私たちひとり一人は、勇気をもって今、ここでの現実と向き合うだけ、小さな希望に出会うことができる、と教えています。私たちは 10 年以上にわたって、人がともに成熟するような対話のあり方、『教育的対話』(小谷, 2000)を探求してきました。私たち日本人の心の働き(西川, 2012)を踏まえた教育的対話の基本 6 技術を練習しましょう。

参考文献

小谷英文 (2000). 心理教育プログラム 教育的対話力-応答構成による挑戦-. ボールパークコーポレーション.
西川昌弘. (2012). 心的安全空間と日本人の人格構造. 小谷英文 (編). 心的安全空間-『人間の安全保障』の基盤- (pp21-31). 国際基督教大学高等臨床心理学研究所.

大会参加費について

年次大会

会員・学生：18,000 円

非会員：21,000 円

懇親会：5,000 円

※IADP 会員の方は年会費 1,000 円をお支払い下さい。

早期割引

7 月 21 日(土)までに申し込みいただくと参加費を 3,000 円割引させていただきます。

災害臨床プログラム (DCP)

被災地の市民・専門家:無料

※被災地の専門家で、災害臨床プログラム以外の専門家向け学会プログラムに参加される場合は、参加費は 10,000 円となります。

申し込み方法

大会に参加希望の方は①大会ホームページの申し込みフォームから申し込んでいただくか、②同封の申込用紙および領収書に必要事項をご記入の上、大会事務局まで郵送または FAX でお送りください。

申込締切：8 月 24 日(金)とさせていただきます。それ以降は IADP 大会事務局までお問い合わせ下さい。

大会事務局

大会事務局：PAS 心理教育研究所事務局内

第 18 回年次大会事務局長：橋本和典

〒153-0041 東京都目黒区駒場 2-8-9

TEL & FAX: 03-6407-8201

電話の受付時間は月曜日から金曜日までの午後 2 時から 6 時となっております。

大会ホームページ

<http://www.iadp.info/>

最新情報を随時更新しています。是非ご覧下さい。

ケースセミナー発表者募集

大会事務局では、大会 3 日目の 10:00-12:00 に行われるケース検討の発表者を募集します(最大 10 事例募集)。特に今回は大会テーマに則り、震災・心的外傷・PTSD、解離性障害の事例発表を歓迎します。また、海外から多くの専門家の先生がいらっしゃいますので、英語での発表も積極的に募集致します。発表をご希望の方は、①大会ホームページの申し込みフォームの「ケース検討希望」の欄をチェックしていただくか、②参加申込書のメールアドレスの欄とケース発表の「希望する」の欄をご記入の上、大会事務局までお送りください。追って、大会事務局より発表要旨テンプレートをメールにてお送りします。

発表要旨の作成

発表要旨には、下記の内容を含むようにしてください。

- タイトル
- 発表者の氏名および所属
- 事例概要(定性データ、アセスメント、治療目標等)
- 事例経過(経過は検討したいポイントに絞って簡潔にまとめてください)
- 検討ポイント

下記の大会事務局のアドレス宛に、テンプレートに記載した発表要旨をメールに添付してお送りください。発表希望者にはテンプレートファイルを事務局から送信致します。ご返信頂く際、ワードファイルのパスワードをお知らせ致しますので、そのパスワードでセキュリティロックをかけた上、ファイルを添付してご返信ください。ご不明な点がありましたら事務局までおたずね下さい。

大会事務局アドレス: iadp@iadp.info

提出期限は、2012 年 7 月 21 日(土)です。

注記

共同発表者がいる場合は、発表事例要旨をご提出される前に共同発表者と内容の確認を行ってください。全ての発表は、該当関係団体の倫理規定、法律に則ってご準備下さい。その条件の下で受理いたします。

要旨の受理と発表

事例発表審査委員会が発表事例要旨を精査し、7月28日(土)までに発表者に結果を通知いたします。受理されたプロポーザル要旨は、抄録集に掲載されます。

発表当日の資料の作成

なお受理された発表者は、発表当日、①直近のセッションの開始後 10 分間程度の逐語記録、②同セッション全体のプロセス概要をまとめた資料(A4 版 1 頁)をご用意ください。なお、逐語は記憶を再構成したものでも可能です。

アクセスマップ

会場: 宮城学院女子大学

〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘 9-1-1
(JR 仙台駅よりバスで約 30 分)

※1 日目の大会プログラム終了後、大会会場から懇親会会場への無料のバスを運行する予定です。大会 2 日目と 3 日目は大会会場から仙台駅への無料のバスを運行いたします。

JR を利用する場合

東北新幹線などで仙台駅までお越し下さい。仙台駅西口を出て、駅前のバス乗り場から、宮城交通バスをご利用下さい(バス所要時間:約 30 分・340 円)。

- 西口バスプール 3 番「宮城学院前」行乗車→「宮城学院前」下車。
- 西口バスプール 2 番「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」行乗車→「宮城学院前」下車。

仙台空港を利用する場合

仙台空港から「仙台空港アクセス鉄道」にて JR 仙台駅までお越し下さい(約 25 分・630 円)。仙台駅西口を出て、駅前のバス乗り場から、宮城交通バスをご利用下さい。

- 西口バスプール 3 番「宮城学院前」行乗車→「宮城学院前」下車。
- 西口バスプール 2 番「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」行乗車→「宮城学院前」下車。



国際力動的心理療法研究会 第 18 回年次大会 災害臨床プログラム (DCP) 参加申込書

記入日: 2012 年 月 日

※がついた項目は、必ずご記入ください。

※Name	(アルファベットをご記入ください)	※	※
※氏名		歳	男・女
連絡先	※住所: 〒 _____ _____ ※電 話: _____ E メール: _____@_____		
※ご職業			
※当プログラムをどのよう にお知りになりましたか			

■ 災害臨床プログラム以外の学会プログラムへの参加

ご希望の専門家の方は、「希望する」に○印をお付けください(別途参加費 10,000 円となります)。

学会プログラムへの参加を 希望する

※災害臨床プログラム以外の学会プログラムに参加を希望される専門家の方は、下記の欄にもご記入ください。

ご職業について	所属・職種	
	所在地	〒 _____ _____ 電 話: _____
	最終学歴 取得学位	

災害臨床プログラムワークショップ「アゴラ」 事前アンケート

大会 2 日目に行われる「アゴラ」では、10 のワークショップが開催されます。ワークショップには 1 日プログラムと半日プログラムがあります。半日プログラムは、午前と午後それぞれ自由に組み合わせさせてご参加いただけます。

参加ワークショップの登録は、アゴラ当日、受付にて行います。1 日プログラムおよび午前プログラムは朝 9 時より、午後プログラムは午後 2 時より、受付開始です。

それに先立って、現時点で参加者の皆様が、どのプログラムに関心をお持ちか、事前にお伺いします。プログラム準備に活用させていただきます。ご協力のほどよろしくお願いたします。

下記のプログラムの中で、現時点でご関心のあるワークショップ・参加を希望されるワークショップのチェック欄に✓をご記入ください(複数お書きくださって結構です)。

一日プログラム(9:30-11:30, 14:30-17:30)	参加希望
A-1. 自然災害と関連した子どもの心的外傷に対する心理力動的治療技術	<input type="checkbox"/>
A-2. 心的外傷をもつ青年との治療的作業	<input type="checkbox"/>
A-3. 心的外傷サポートグループ、プレセラピー・グループ、グループセラピー	<input type="checkbox"/>
A-4. 虐待への反応としての心的外傷と女性	<input type="checkbox"/>

午前プログラム(9:30-11:30)	参加希望
B-1. 心の道具箱を創る ※	<input type="checkbox"/>
B-2. 力動的心理療法とヨガによる被災後の治癒	<input type="checkbox"/>
B-3. 心の軸を太くするトレーニング (SET)	<input type="checkbox"/>
B-4. Story Making Group (SMG)	<input type="checkbox"/>
B-5. 福島人のためのサポートグループ	<input type="checkbox"/>
B-6. 今、ここの自分が、安全に、相手に声を発し、自分に立ち戻る仕方を学ぼう	<input type="checkbox"/>
B-7. こどもの PTSD やさしい心のケア技法	<input type="checkbox"/>
B-8. 絵本の読み聞かせ しっかりと声を出して相互作用の場所、空間を作る	<input type="checkbox"/>

※「心の道具箱を創る」は、宮城学院女子大学職員対象のワークショップです。

午後プログラム(14:30-17:30)	参加希望
C-1. 心の軸を太くするトレーニング (SET)	<input type="checkbox"/>
C-2. Story Making Group (SMG) 日本語グループ	<input type="checkbox"/>
C-3. Story Making Group (SMG) 英語グループ	<input type="checkbox"/>
C-4. 福島人のためのサポートグループ	<input type="checkbox"/>
C-5. 今、ここの自分が、安全に、相手に声を発し、自分に立ち戻る仕方を学ぼう	<input type="checkbox"/>
C-6. こどもの PTSD やさしい心のケア技法	<input type="checkbox"/>
C-7. 絵本の読み聞かせ しっかりと声を出して相互作用の場所、空間を作る	<input type="checkbox"/>

国際力動的心理療法研究会 第 18 回年次大会 参加申込書【専門家向け学会プログラム】

記入日: 2012 年 月 日

Name	(アルファベットをご記入ください)			() 会員
氏名		歳	男・女	() 学生 () 非会員
連絡先	〒 _____			

	電話: _____			
	Eメール: _____@_____			
所属先	職業・専門			
	所属・職種			
	所在地	〒 _____		

	電話: _____			
最終学歴・取得学位				
本大会をどのようにお知りになりましたか？				

■ 参加プログラム

参加希望のプログラムのチェック欄に✓をお願いします。

参加プログラム名	チェック
年次大会	<input type="checkbox"/>
懇親会(1日目夜)	<input type="checkbox"/>

■ ケース発表

希望する / 希望しない

(どちらかに○印をつけてください)

※ケース発表希望の方には、発表要旨投稿要綱をお送り致します。投稿は7月21日(土)申込締切です。発表要旨の査読を行った上で7月28日(土)までに発表の可否をお伝え致します。

災害臨床プログラムワークショップ「アゴラ」事前アンケート

大会 2 日目に行われる「アゴラ」では、10 のワークショップが開催されます。ワークショップには 1 日プログラムと半日プログラムがあります。半日プログラムは、午前と午後それぞれ自由に組み合わせさせてご参加いただけます。

参加ワークショップの登録は、アゴラ当日、受付にて行います。1 日プログラムおよび午前プログラムは朝 9 時より、午後プログラムは午後 2 時より、受付開始です。

それに先立って、現時点で参加者の皆様が、どのプログラムに関心をお持ちか、事前にお伺いします。プログラム準備に活用させていただきます。ご協力のほどよろしくお願いたします。

下記のプログラムの中で、現時点でご関心のあるワークショップ・参加を希望されるワークショップのチェック欄に✓をご記入ください(複数お書きくださって結構です)。

一日プログラム(9:30-11:30, 14:30-17:30)	参加希望
A-1. 自然災害と関連した子どもの心的外傷に対する心理力動的治療技術	<input type="checkbox"/>
A-2. 心的外傷をもつ青年との治療的作業	<input type="checkbox"/>
A-3. 心的外傷サポートグループ、プレセラピー・グループ、グループセラピー	<input type="checkbox"/>
A-4. 虐待への反応としての心的外傷と女性	<input type="checkbox"/>

午前プログラム(9:30-11:30)	参加希望
B-1. 心の道具箱を創る ※	<input type="checkbox"/>
B-2. 力動的心理療法とヨガによる被災後の治癒	<input type="checkbox"/>
B-3. 心の軸を太くするトレーニング (SET)	<input type="checkbox"/>
B-4. Story Making Group (SMG)	<input type="checkbox"/>
B-5. 福島人のためのサポートグループ	<input type="checkbox"/>
B-6. 今、ここの自分が、安全に、相手に声を発し、自分に立ち戻る仕方を学ぼう	<input type="checkbox"/>
B-7. こどもの PTSD やさしい心のケア技法	<input type="checkbox"/>
B-8. 絵本の読み聞かせ しっかりと声を出して相互作用の場所、空間を作る	<input type="checkbox"/>

※「心の道具箱を創る」は、宮城学院女子大学職員対象のワークショップです。

午後プログラム(14:30-17:30)	参加希望
C-1. 心の軸を太くするトレーニング (SET)	<input type="checkbox"/>
C-2. Story Making Group (SMG) 日本語グループ	<input type="checkbox"/>
C-3. Story Making Group (SMG) 英語グループ	<input type="checkbox"/>
C-4. 福島人のためのサポートグループ	<input type="checkbox"/>
C-5. 今、ここの自分が、安全に、相手に声を発し、自分に立ち戻る仕方を学ぼう	<input type="checkbox"/>
C-6. こどもの PTSD やさしい心のケア技法	<input type="checkbox"/>
C-7. 絵本の読み聞かせ しっかりと声を出して相互作用の場所、空間を作る	<input type="checkbox"/>

領 収 書

注:

- お名前、ご住所、お電話番号の欄のみご記入の上、申込書と一緒にご送付ください。お手数おかけしますが、よろしくお願いいたします。
- 以下の表は事務局が記入いたしますので、記入の必要はございません。

	金額	チェック
大会参加費		
研究会会員、学生	18,000 円	<input type="checkbox"/>
非会員	21,000 円	<input type="checkbox"/>
懇親会参加	5,000 円	<input type="checkbox"/>
早期割引	-3,000 円	<input type="checkbox"/>
年会費	1,000 円	<input type="checkbox"/>
合計金額		円

上記正に領収いたしました。

お名前 _____ 様

ご住所 _____

お電話番号 - _____ -

領収日 2012 年 月 日
国際力動的心理療法研究会 事務局
PAS 心理教育研究所内
〒153-0041
東京都目黒区駒場 2-8-9
TEL&FAX: 03-6407-8201